



# 新宿御苑の歴史

## 始まりは1590年

## 武家屋敷から国民公園へ

天正18年  
1590年 豊臣秀吉に国替えを命じられた**徳川家康**は三河から江戸にうつりました。家康の入府を警護した**家臣の内藤清成**は功績を認められ、家康から「馬で一気に走った分の土地授ける」と言われました。清成はその結果、北は大久保、南が千駄ヶ谷、東が四谷、西が代々木にわたる広大な土地を賜りました。この一部が後の新宿御苑になります。

慶長8年  
1603年 徳川家康が征夷大将軍になり**江戸時代**になります。

承応3年  
1654年 **玉川上水完成**。大都市となった江戸に上水が必要になり多摩川上流の羽村から四谷大木戸に至る玉川上水が作られました。一部は内藤家の屋敷地にも流れ入り、池（玉藻池）の水源として利用されていました。現在は散策路に玉川上水のモニュメントとしての流れがあります。



内藤家7代目の清成が、3万3千石の**信州高遠藩主**となりました。神田小川町には上屋敷も賜り、**四谷は下屋敷**になりました。下屋敷の庭園「玉川園」は江戸の名園として数えられ、その面影が現在も**玉藻池**周辺に残っています

元禄11年  
1698年 内藤家は幕府の要請により江戸下屋敷の一部を幕府に返還。甲州街道の起点となる新しい宿場町「内藤新宿」が出来ました。ここに**新宿**という地名が登場します。

享保年間  
1716年～ 8代将軍吉宗の奨励をうけ、内藤家の領地でも野菜が作られました。手早く食べられる蕎麦が江戸っ子気質に合い大流行。薬味として人気になった**内藤とうがらし**が盛んに作られました。収穫期には周辺が真っ赤に染まったほどと言われています。



慶応3年  
1867年 **大政奉還**。15代将軍徳川慶喜が天皇に政権を返上しました。

明治元年  
1868年 **明治時代**が始まります。

明治5年  
1872年 大蔵省が内藤家の邸宅地と周辺を購入し、「**内藤新宿試験場**」を開設しました。試験場では欧米の野菜や果物を導入し、種や苗などを生育試験、動物の飼育試験を行い技術の習得をしました。これには各府県への頒布(はんぷ)が目指されていました。

明治7年  
1874年 試験場の中に「**農事修学場**」を設置しました。(明治10年授業開始)これは東京大学農学部、東京農工大学農学部などの前身になります。

明治12年  
1879年 新宿試験場の業務が三田育種場に移ると、新宿の土地は皇室に献納され、宮内省の所管となりました。この時、名称を「**植物御苑**」と改めました。皇族や華族によって様々に利用されました

明治19年  
1886年 宮内省御料局の管轄になり**新宿御料地**に改称しました。ここでは皇室へのふたつの役割を担っていました。一つ目は日々皇室へ供する**御料野菜**や**花卉の栽培**二つ目は**鴨場**です。今の日本庭園あたりに鴨場が作られ、天皇や皇太子が鴨猟で利用されていました。

明治30年頃 海外の要人をもてなすための庭園への改造計画がもち上がりました。ここで活躍するのが「**福羽逸人(ふくばはやと)**」という人物です。

明治33年  
1900年 福羽逸人はパリ万博のためフランスを訪れた際に、ヴェルサイユ園芸学校の造園教授**アンリ・マルチネー**に新宿御苑を皇室庭園に改造する計画を依頼しました。この鳥瞰図はアンリ・マルチネーがイメージして描いたものです。ほぼ現在の新宿御苑の形になっています。



明治39年  
1906年 皇室庭園「**新宿御苑**」が完成すると、明治天皇のご臨席のもと日露戦争祝賀会を兼ねた開苑式が行われました。

昭和20年  
1945年 第二次世界大戦で新宿御苑は、3度の空襲により、旧御涼亭と旧洋館御休所を残し、園内はほぼ全焼します。食料増産のために、芝生は開墾され農耕地となりました。戦後は東京都の農業科学講習所用地となりました。

昭和22年  
1947年 日本国憲法発布後、昭和22年12月の閣議決定によって旧皇室庭園である新宿御苑は、皇居外苑、京都御苑とともに、「**国民の慰楽、保健、教養等、国民福祉のために確保し、平和的文化国家の象徴**」として運営していくことが決定し、厚生省に所管を移しました。

昭和24年  
1949年 3月、都立農業科学講習所は廃止。「**国民公園新宿御苑**」と名称を改め、5月21日に一般に公開されました。

平成13年  
2001年 昭和46年環境庁の発足にともない、全国の国立公園などとともにも所管が環境庁に移っていましたが、省庁再編により**環境省**に所管が移りました。